

**コンゴ(民)月例報告
政治関連
2018年6月**

主な出来事

- 7日、カビラ大統領は選挙のための新たな与党グループ「FCC」の憲章を採択した。同グループの Autorite Morale(倫理的権威)にはカビラ大統領が指名された。
- 8日、国際刑事裁判所(ICC)は、中央アフリカの事態・ベンバ事件(人道に対する罪及び戦争犯罪)の上告審の判決で、ジャン=ピエール・ベンバ MLC 党首に対し無罪を言い渡した。
- 9日、国民議会は、大統領選挙のための在外コンゴ(民)人の選挙人登録を行わないことを決定した。これにより27日、カビラ大統領は修正版の選挙法を發布した。
- 9日、カトウンビ元カタンガ州知事が代表を務める選挙のための野党グループ「Ensemble」は、キンシャサ市ンジリ地区の Sainte Therese 広場で市民会合を開催した。
- 13日夜、カトウンビ元カタンガ州知事はブリュッセルのザヴェンテム空港で、変造した旅券を所持していたことを理由にベルギー警察に足止めされた(その後カトウンビ氏には、15日間の臨時滞在許可証が発給された)。
- 21日、当地米大は、「国務省のキャリア外交官マイケル・A・ハマーが在コンゴ(民)大使のポストに指名された」と発表した。
- 23日、独立国家選挙委員会(GENI)は、12月23日に投票の行われる一連の選挙(大統領、国民議会、州議会)の公示と立候補の受付を発表した。

1. 内政

(1)カビラ大統領のルブンバシ市訪問

・1日、カビラ大統領は訪問先のオー=カタンガ州ルブンバシ市で、カスンバレサ(ザンビア国境)の税関施設の起工式を始め、コンゴ中央銀行、商業センター、州知事庁舎の竣工式等に出席した。

(2)小型車による民間タクシーの検問

- ・6日、コンゴ(民)国家警察(PNC)は、小型車による民間タクシーに課した登録及びペイントの検問を開始した。また、タクシーであることを示す車上灯の設置が新たに求められた(5日付 Radio Okapi)。
- ・キンブタ・キンシャサ市長は無認可タクシー(小型車及びミニバス)の登録及び車体の塗り替えについて、20日から7月5日までの15日間、再度猶予期間を設けた。

(3)カビラ大統領のイニシアチブによる選挙のための与党グループの発足

・7日、カビラ大統領は会議を主催し、選挙のための新たな与党グループ「FCC(Front Commun du Congo, コンゴ統一戦線)」の憲章を採択した。同グループの Autorite Morale(倫理的権威)にはカビラ大統領が指名された(8日付 RFI)。

(4)在外コンゴ(民)人の選挙人登録中止の決定

- ・9日、国民議会はほぼ全会一致で、12月23日に予定されている大統領選挙のための、在外コンゴ(民)人(ディアスポラ)の選挙人登録を行わないことを決定した。
- ・27日、右決定を受け、カビラ大統領は在外コンゴ(民)人の登録に関する第55条を修正した選

拳法を公布した。

(5)臨時国会の開催

・15日、ミナク国民議会議長は、15日の通常国会閉会式で、20日から臨時国会を開催すると発表した。同臨時国会中にはカビラ大統領の演説が予定されており、また、元国家元首(憲法により終身上院議員となる)の法的資格に関する法案が審議される予定である。

(6)シェ・オキトウンドウ外相が12月23日の選挙実施に言及

・17日、シェ・オキトウンドウ外相は仏メディア(RFI, TV5, ルモンド)のインタビューに応え、今年12月23日に選挙を実施し、カビラ大統領は憲法を尊重すると述べた。また、投票機器(machine a voter)の使用を支持すると表明した。ベンバ MLC 党首の帰国については、同党首が望めば帰国に支障はないが、カトウンビ元カタンガ州知事については、裁判所に出頭する必要があると述べた。

(7)独立記念日(6月30日)の軍事パレードの中止

・29日、当局は、独立記念日恒例の軍事パレードを中止すると発表した。同パレードは前年も行われなかったが、今年は、軍事パレードに代わり、キンシャサ市で、治安部隊(軍及び警察)による行進が行われた。

(8)野党の動向

ア ムジト元首相とフェリックス・チセケディ UDPS 党首の共同コミュニケ

・2日、ムジト元首相(所属政党 PALU の内紛で、大統領多数派(MP)とは距離を置いている)とフェリックス・チセケディ UDPS 党首はブリュッセルで会談し、カビラ大統領の3期目を認めない等の共同コミュニケを発表した。

イ ルンビ MSR 党首が新党を結成

・7日、ルンビ MSR 党首が新たに結成した野党政党 MCR (Mouvement Congolais pour la Renaissance, 再生のためのコンゴ運動)が党大会を開催した(8日付 Le Potentiel 紙)。

ウ 野党グループ「Ensemble」による市民会合

・9日、カトウンビ元カタンガ州知事が3月に発足させた選挙のための野党グループ「Ensemble(アンサンブル)」は、キンシャサ市ンジリ地区の Sainte Therese 広場で市民会合を開催し、数千人の市民が参加した。カトウンビ代表のメッセージはテレビ会議システムを通じて会場に流された。

エ カトウンビ元カタンガ州知事のブリュッセルの空港での一時拘束

・13日夜、カトウンビ元カタンガ州知事は、ブリュッセルのザヴェンテム空港で、変造した旅券を所持していたことを理由にベルギー警察に足止めされた。警察関係者によると、カトウンビ氏のパスポートには偽造されたページが差し込まれていた。カトウンビ氏の関係者によると、同氏は、イスラエルからロシアでのサッカー・ワールドカップに向かう途中、自家用ジェット機でベルギーに立ち寄った。ベルギー外務省に連絡した後、カトウンビ氏には、15日間の臨時滞在許可証が発給された。

オ フェリックス・チセケディ UDPS 党首による選挙関連メッセージ

・25日、フェリックス・チセケディ UDPS 党首は選挙に関し、投票機器(machine a voter)の使用を中止すること等を求めるメッセージをだした。

カ カトウンビ元カタンガ州知事の司法案件に関するカビラ大統領への公開状

・25日、野党グループ「Ensemble」を中心とする国民議会議員と上院議員の50名は連名で、カト

ウンビ元カタンガ州知事の傭兵雇用疑惑に関する最高裁判所での審議をルブンバシの大審裁判所に変更すること(当館注:最高裁判所の判決は最終決定となる)等の司法問題に、カビラ大統領の介入を求める公開状を送った。

キ カトウンビ元カタンガ州知事の傭兵雇用疑惑に関する判決の延期

・27日、最高裁判所は、同日に予定されていたカトウンビ元カタンガ州知事の傭兵雇用疑惑に関する判決を10月10日に延期した。

(9)独立国家選挙委員会(GENI)の動向

ア 州議会選挙立候補事務所164か所の開設

・16日、バセンゲジ GENI 副委員長は、州議会議員選挙の立候補受付を行う事務所を164か所開設すると発表した(18日付 ACP)。

イ 選挙の公示

・23日、GENI は、12月23日に投票の行われる一連の選挙(大統領、国民議会、州議会)の公示と立候補の受付を発表した。24日から7月8日までは州議会選挙、7月25日から8月8日までは大統領選挙と国民議会選挙の立候補受付が行われる。

2. 外交

(1)国連事務総長及び AUC 委員長へのカビラ大統領の親書

・1日、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合大臣は、カビラ大統領からの親書を携えてニューヨークの国連本部でグテーレス国連事務総長と面会し、コンゴ(民)の選挙プロセス等に関し意見交換を行った。

・3日、シェ・オキトウンドウ外相は、アジスアベバの AU 本部でムーサ・ファキ AUC 委員長にカビラ大統領からの親書を手渡した(4日付 ACP 等)。

(2)プーチン・ロシア大統領の特使がカビラ大統領と面会

・7日、プーチン・ロシア大統領の特使として、同大統領からの親書を携えたボグダノフ・ロシア外務副大臣がカビラ大統領と会談した。前日6日には、同特使はシェ・オキトウンドウ外相を訪れた。

・8日、国民議会は、1999年にローラン＝デジレ・カビラ前大統領が署名したものの、それ以降、施行されずに放置されていたロシアとコンゴ(民)の軍事・技術協力合意を再び採択した。

(3)シェ・オキトウンドウ外相のガボン及びアンゴラ訪問

・15日、シェ・オキトウンドウ外相はアリ・ボンゴ・ガボン大統領を訪れ、選挙プロセスの進捗状況について会談を行った。

・18日、シェ・オキトウンドウ外相はロウレンソ・アンゴラ大統領を訪れた。コンゴ(民)は、17日にルアンダでの開催が予定されていた地域の首脳による会議の延期を求めている。

3. 東部及び大湖地域情勢

北キブ州ヴィルンガ国立公園の観光を一時中止

・4日、北キブ州ヴィルンガ国立公園のメロード代表はコミュニケで、同公園の観光客への開放を今年いっぱい中止すると発表した(4日付 AFP)。

4. その他

(1)国際刑事裁判所(ICC)によるベンバ MLC 党首の無罪判決

・8日、国際刑事裁判所(ICC)は、中央アフリカの事態・ベンバ事件(人道に対する罪2件(殺人及び強姦)、戦争犯罪3件(殺人、強姦及び略奪))の上告審判決で、ジャン＝ピエール・ベンバ MLC

党首に対し無罪判決を言い渡した。一方で、ベンバ党首は、ベンバ事件の証人に対する買収等に関する「裁判の運営に対する犯罪」の容疑(ベンバ・キロロ他事件)でも勾留されていることから、即時釈放はされなかった。

・12日、ICC はベンバ MLC 党首を仮釈放する決定を行い、同日夜、ベンバ党首はハーグの ICC を後にした(ベルギー入国は15日夜)。ベンバ・キロロ他事件の最終判決は7月4日以降に行われる予定。

(2)LUCHA の設立者の一人の焼死

・10日未明、北キブ州ゴマ市で、「LUCHA(Lutte pour le changement(変化への闘争、若者による民主化推進グループ))」の設立者の一人であるンクルラ氏(Luc Nkulula)が、自宅の火災で焼死体となって発見された。(10日付 RFI 等)。

・12日、コンゴ(民)司法当局は、死亡したンクルラ氏の自宅の火事原因に関する調査の開始を発表した。一方で、LUCHA 及びカトリック非聖職者調整委員会(CLC)などの市民団体は、国際社会の支援による独立調査を求めている(12日付 AFP 等)。

(3)新在コンゴ(民)米大使の任命

・21日、当地米大はツイッターで、「国務省のキャリア外交官マイケル・A・ハマーが在コンゴ(民)大使のポストに指名された」と発表した。

(4)米がコンゴ(民)政府高官数名を入国禁止

・21日、米国務省は、コンゴ(民)政府高官数名を、選挙プロセスを妨害するための汚職に関与したとして、入国禁止としたと発表した。人数、氏名、役職等は公表されていない(21日付 AFP)。

(5)国連人権理事会によるグラン・カサイの人権調査報告

・26日、グラン・カサイの人権状況調査のため国連人権理事会から派遣された専門家グループは、同地域での市民に対する人権侵害は、治安当局と民兵によって行われたと非難した。同専門家グループによる報告書は7月3日に発表される(26日付 AFP)。